

セットアップ

- ・推奨人数：3名～5名、参加者の中から書記を1名決めます（SOUNDコーチ兼任でも良い）
- ・用意するもの：SOUND CARD™、ホワイトボード/模造紙、付箋紙

Opening イン트로ダクション

イントロダクションの目的

これから行うセッションの主旨や進め方について共有し、メンバーのセッションへの参加準備を整えます

- ① SOUNDコーチからセッションの目的・意図を簡潔に紹介します
- ② メンバー全員が「今の正直な気持ち」を一言ずつ話します

Step0 Agenda：ダイアログアジェンダの選定（15分）

※事前にアジェンダが定まっていない場合に実施します

Agendaの目的

セッションの中で何について話し合うかについてチーム内で合意を得られている状態を目指します

カード選択

- ① メンバー全員が選びやすくなるように、すべてのAgendaカードを並べます
- ② このセッションで扱いたいと思うアジェンダに近いカードを各自1枚ずつ選び自分の前に置きます

アジェンダ決め

- ③ そのAgendaカードを選んだ理由・背景を各自1分程度で話します
- ④ 各自が選んだカードを並べ、どのアジェンダで話し合いたいかをメンバー全員で投票します
1位と2位の票差がない場合は決選投票を行ってください
決選投票による選定が望ましくない場合は両方の内容が含まれるように「〇〇について」とアジェンダを設定してください

掲示

- ⑤ メンバー全員がいつでもアジェンダに立ち戻れるように、書記はホワイトボード/模造紙に確定したアジェンダを書き込みます

Point!

全員の関与を大切に

カードを使ってアジェンダの案を全員で持ち寄ることにより、それぞれの関心が丁寧に扱われている状態を作り、アジェンダに対して全員がコメントできるように促します

アジェンダレベルを適度に調整

アジェンダが一つに定まらない場合はそれぞれの意味が含まれるように抽象化し、「〇〇について」とアジェンダを設定してください

Step1 Status：現状の見える化と安全な場づくり（15分）

Statusの目的

アジェンダを取り巻く状況を各自がどのようにとらえているのかを共有し、耳を傾けあうことにより共通認識の幅を広げ、安心安全な場をつくります

カード選択

- ① メンバー全員が選びやすくなるように、すべてのStatusカードを並べます
- ② アジェンダにまつわる状況として共有したいと思う問いを各自1～3枚ずつ選び、自分の前に置きます

共有

- ③ 発表の順番を決め、アジェンダにまつわる状況としてもっとも共有したいカードを各自1枚選び、1～3分程度で問いに対する答えを述べます

※問いの答えとしてまとまっていなくても構いませんので自分の言葉で語っていただきます

書記は各自の発表を箇条書きの状態ホワイトボード/模造紙に記録し全員が閲覧できるようにします

Point!

認識の幅を広げる

問いに対する答えをお互いに共有することにより、それぞれの認識が広がることを目指します。発言が短すぎる場合は、その背景が他のメンバーに伝わるようにSOUNDコーチから追加質問をして発言を促しましょう
また、発言が長くなりすぎないよう、予め発言目安時間を伝えることも有効です

傾聴を促す

それぞれが目にしていて、感じていることには価値があるという共通認識が生まれることを目指して、発言者の言葉に耳を傾けるように適度に働きかけましょう

Step2 Outcome : ビジョン・アウトカムの共創 (30分)

Outcomeの目的

アジェンダに関する取り組みを手掛けた先にどんな可能性の未来にたどり着きたいのかをメンバーで共に描きます
未来のイメージを紡いでいくことにより、活動の意味を見出せるように促すのに加え、チーム内の合意形成の土台を築きます

カード選択

- ① メンバー全員が選びやすくなるように、すべてのOutcomeカードを並べます
- ② 「アジェンダに関する取り組みを手掛けた先にどんな可能性の未来にたどり着きたいか？」という観点に立って、各自1~3枚のカードを選び自分の前に置きます
- ③ 複数枚選んだ人は、その中からさらに1枚を選びます。1枚に絞り込む際には最も自分の内面を引き出される感覚の強いものを選ぶようにします

共有

- ④ 発表の順番を決め、その問いによって引き出されたイメージを共有します
この時、聴き手は印象に残ったキーワード、共有によって触発されて思いついた言葉等を付箋紙1枚につき1つずつ書き留めていきます
(複数あれば、別の付箋紙に書き留めます)
- ⑤ 各自記載した付箋紙を全員で共有し、分類しながら、メンバー全員が大切にしたいことや実現したい未来のイメージとして共通していることを見出していきます

ステートメント化

- ⑥ メンバーに共通しているイメージを元に言葉を紡ぎ、「私たちは○○という(になっている)未来を実現するために存在しています(取り組みます)」と表現されたアウトカムステートメントを創り出します
- ⑦ 書記は完成したアウトカムステートメントを全員が閲覧し、いつでも立ち戻れるようにホワイトボード/模造紙に記録します

Point!

一人の望みをみんなの未来に
チームメンバー全員が検討に参画し各自の描いた可能性の未来がアウトカムステートメントに表現されるように促します

心に灯をつけるステートメントに
アウトカムステートメントは、残りの時間を考慮に入れながら作文に務め、目にしたり、口にしたりするたびにチーム全員がグッと気持ち上がる一文を創り上げていきます

Step3 Understand : 構造とねらい目の見極め (45分)

Understandの目的

Outcomeの実現を妨げる引き戻し構造や影響を与える将来のシナリオなどに対する洞察を深め仮説を紡ぎながら、フォーカスポイントを見極めます

カード選択

- ① メンバー全員が選びやすくなるように、すべてのUnderstandカードを並べます
- ② 「Outcome実現に照らしてみた時に考慮/視野に入れておきたいことは何か？」という観点から考える/話し合うにふさわしいと思う問いのカードを各自1~3枚選び、自分の前に置きます
- ③ 各自、自分の選んだカードの中から、考える/話し合うに最も値すると思うものを1枚選びます

共有と対話

- ④ 発表の順番を決め、その問いに対する答えと、それにまつわるエピソード、そう考えるに至った経緯などを1人3分程度でそれぞれ発表します
この時、聴き手は語られた事柄のうち印象に残ったことを付箋紙1枚につき1つずつ書き留めます(複数あれば別の付箋紙に書き留めます)
- ⑤ 全員の発表が終わったら、各自書き留めたメモを共有し、どんなことを感じたのか、ここから私たちは何を見出すことが問われているのか等について対話を行います

沈黙の時間

- ⑥ ある程度、話が一巡したような感覚があったり、なんとなく頭打ち感が生じたような感覚が生まれた時点で、数分間の沈黙の時間を取ります
沈黙の時間の間は、PC、スマートフォンなど触らず、静かに目を閉じて自分自身の中で思考を熟成させる時間を取ります。沈黙が終わった時点で、1人ずつ思ったこと、感じたことを話し、引き続き対話を行います

フォーカスポイントの設定

- ⑦ 残り時間を考慮に入れながら、「Outcomeの実現をより力強いものにしていくために、どこに狙いを定め、何を手掛けていくのか」を話し合いフォーカスポイントを設定し、ホワイトボード/模造紙に記録します

Point!

対話を深める

Outcomeの実現に向けて考慮に入れておくべきことを話し合うことにより、それぞれのメンタルモデル(≒過去の経験によって構成された現実認識)が転換することを目指して、対話を繰り返していきましょう

観察と洞察を促す

より深い気付きや発見を可能にするため、自分自身の慣れ親しんだ考えや、口癖のような意見に気づき、横に置きながら話したり聴いたりすることを心がけるように呼びかけることが有効です

Step4 Negative Check : 抵抗／摩擦の洗い出し（6分）

Negative Checkの目的

Understandで掲げたフォーカスポイントを実践に移していくにあたり、気がかりとなること、予め考慮に入れ対処しておいた方がよいことなどについて共有し、Driveでのアクションプランの選定に役立てます

カード選択

- ① メンバー全員が選びやすくなるように、すべてのNegative Checkカードを並べます
- ② Understandで明確にしたフォーカスポイントを実践に移していく上で気がかりとなることや考慮に入れ対処しておいた方がよいと思うことは何か？という観点から、カードを各自1～3枚選び、目の前に並べます

共有

- ③ 発表の順番を決め、発表者は自分の選んだカードを他のメンバーに共有します
- ④ 発表者以外のメンバーはそのカードの中から発表者に聴いてみたいと思うカードを1枚選び、そのカードの問いについて発表者に答えてもらいます

メンバー全員がDriveでのアクション選定の際に検討できるように、書記はホワイトボード/模造紙に問いに対する答えを書き込みます

Point!

多様な声を大切に

Outcomeやフォーカスポイントによって自然に生じうる「前進しなければならぬ」というプレッシャーに対する心理的抵抗を緩和できるように、気がかりや思い煩いを共有することで、心理的安全性が高まるように働きかけます

「打つべき先手」を皆で発見

抵抗/摩擦要因を挙げておくことで、打ち手の精度を高め、先回りした対応が可能になるように促します

Step5 Drive : アクションの選定と実行（24分）

Driveの目的

Outcomeの実現に向けて、フォーカスポイントに取り組むにあたり、具体的に何をどのように手掛けるのかを明確にし、ネクストステップに対するチーム内での合意形成を図り、実行に移せるようにします

カード選択

- ① メンバー全員が選びやすくなるように、すべてのDriveカードを並べます
- ② 「Outcomeの実現に向けて、フォーカスポイント、Negative Checkコメントに照らして、実際に取り組むことは何か？」という観点に立って、各自1～3枚カードを選び、自分の前に置きます

共有

- ③ 発表の順番を決め、選んだカードから1枚を絞り込んで、問いに答えます
書記は発言内容をホワイトボード/模造紙に記入します

アクション決め

- ④ 全員の発表が終わったら、ネクストアクションのアイデア出しを行い、書記はその候補を随時、ホワイトボード/模造紙に記録します
- ⑤ ネクストアクション候補がそろった時点で、実際に何を手掛けるのかを決定します
案が多い場合は、各候補に対して「すぐやる」、「継続検討」、「やらない」の三択でメンバー全員で投票を行います
- ⑥ 「すぐやる」、「継続検討」に選ばれたネクストアクション候補について誰がいつまでに何を取り組むのかを明確にします

Point!

Outcome、フォーカスポイントを意識する

ネクストアクションは、Outcome実現、フォーカスポイントへの取り組みを見据えて候補を出せるように働きかけましょう

進め方を調整する

ネクストアクションの候補を数多く出し、そこから絞り込む形式でも、全員でしっかりとディスカッションをして精査されたネクストアクションを創り出す形式でもどちらでも構いません。チームの状況や課題の性質に合わせて進め方を調整しましょう

Closing 振り返り

振り返りの目的

セッションのプロセスそのものを振り返ることで、セッション体験を経験へ、経験を学びへと育てます。それにより、適切なプロセスが、課題解決とチームとしての学びの両立を後押ししてくれるという気付きを促します

下記の3つの問いに順番に答えていきます

- 1) このセッションはあなたにとって役に立ちましたか？役に立ったならば、どのように役に立ちましたか？
- 2) このセッションで印象に残った事はありますか？何がどのように作用した結果、印象に残ったと思いますか？
- 3) 今後の日常生活や業務に向けて持ち帰りたいこと・活かしたいことはありますか？

Rescue : 対話の流れを変える問い

Step1～5で場の停滞が生じた際に、Rescueカードをシャッフルし、問いが見えない状態で1枚引きます。そのカードに書かれている問いについて各自思っていること、感じていること等を共有し、話し合いに新たな流れを呼び込むきっかけを作ります